

## 世界の人とふれあいタイム

### 「インドの話」

実施日：平成 27 年 2 月 1 日 (日)

場 所：国際交流室・学生交流室

今回のゲストのニルマラさんはインドの南部に位置するカルナータカ州の州都バンガロールの出身です。IT 産業が有名です。日本に来た動機は IT の求人があった事です。また IT 教師として 15 年前に来日し、大手企業（3社～4社）での実務経験もあります。インドの夏の気候は 45℃～50℃で南は暑く、冬になると北の地方では雪と霧が多く、バンガロールは沖縄の気候と似ています。



ジュンコ・ニルマラさん



インド共和国

ところでインドの結婚式は 1 週間続けて行われ、名古屋の結婚式に似ているそうです。さて動物では牛と犬はペットとして扱われますが、猫はゴーストのイメージがあり、なかなか見ることはできません。また最近のインドは消費欲が高くピザ、レストラン、洋服、土地等の価格は増加の傾向があります。ただし 1 日 3 食はほとんどカレーを食べています。また世界からファッション (GAP, ZARA, ユニクロ) も集まっています。現在のインドはパブル景気で、土地や建物、洋服や家具の価格も決して安くはありません。

インドは 36 州あり、言語や文化の多様性はどのような影響を及ぼしているのか？

- ①何もルールがない事は、全てに対応できている。
- ②相手を責めない。                      ③相手に気を遣う。

ただし現在、カースト制はほとんど存在していません。

より困難なコミュニケーションがある理由？

異なったサブカルチャーの存在が大きい (1,000 以上の言語がある中 14 言語の使用)。英語も一つの公用語で 1873 年に学校で英語を教え始めた。ただしヒンディー語と英語は公用語で、最近では英語が主流です。

インドの国旗の意味？

上からサフラン色・白・緑の配色から成り、サフラン色は勇氣・犠牲・自制の精神、白は純潔と真実を意味し、緑は公正と信仰の色とされています。真ん中の模様は法輪 (チャクラ) で 24 のラインが描かれています。また、蓮はインドの国花、ベンガルトラはインドの国獣、孔雀はインドの国鳥です。



インドヨガは 5000 年～6000 年前に始まり、カラリパヤットの武術は紀元前 200 年頃と伝えられています。また踊りは何百種類もあります。なま物は食べない習慣があります。一般的に料理は手で食べると美味しく感じられます。インド映画の「踊るマハラジャ」「3人のバカ」は日本でも有名で、年間 1,200 本の映画が撮影されています。国技はホッケーで、最も人気のあるスポーツはクリケット、チェスはインドで発明されています。人気のある職種は、ビジネスマン、エンジニア、MBA の取得、医者、会計士です。

現在アメリカに住んでいるインド人は約 3,000 万人で、日本に住んでいるインド人は 27,000 人です。少ない理由は子どもの教育にお金がかかり、3年～5年で帰国してしまいます。因みに 15 年前は 15,000 人が主に貿易のために住んでいたようでした。今後の国の発展を考えると、日本はほとんど足踏み状態、中国は猛スピードで発展して、インドはやっとスタートした状態です。

日本は高品質で低価格に圧力、中国は市場競争が激烈になり品質・価格ともに顧客から満足度が求められています。これまでのインドは、とにかく安くしなければならなかったのです。今後は高いお金を払っても高品質な物を手に入れたいとのこと。高品質、低価格競争で鍛えられた日本製品であればインド市場で必ず成功するでしょう。

#### Q & A

Q) インドでお勧めする観光地は？

A) タージマハル、アグラ城塞、ガンジス川、ティルパティ寺院は年間 3,000 万人ぐらゐの来場者があります。

Q) 日本の好きな所は？

A) 伊勢、島根、立山。バックパッカーができる。

Q) 日本の良いところ？

A) 何でも豊かで、自分で仕事ができ、稼いで使うことができる。

Q) 困った事？

A) 日本語は喋れるが、読み書きができない。

Q) 将来の夢？

A) 牛は大切な存在で 70 歳～80 歳になったら牛を飼いたい。

Q) インドの強み？

A) 12 億人の人口で多様性がある。

Q) 弱み？

A) 独立した時の法律をそのまま使っている。メディアに大喧嘩が取り上げられることで、ニュースになる。当事者は我慢をしたくないとのこと。

Q) 江東区西葛西にインド人が多く住んでいる理由

A) 大きな団地があり保証金が要らない。その場所には日本人は住んでいなくて、インド人は約 2 万人住んでいる。

日本とインドの人口密度は同じくらい。平均年齢は 25 歳 (日本：平均年齢 45 歳) インドはゼロの発見の国だが、ノーベル賞受賞者は出ていません。その理由は、インド人は明治時代から何もやってこなかったから。ただし忍耐力は強いので、今後 50 年後は必ず変わるでしょう。アンケート結果でも「大変良かった」との回答がほとんどで、大好評でした。

(世界の人とふれあいタイム委員長 生山 龍哉)